

## 「木造都市」支援 優先株引き受け

### 政投銀、山形の建築

日本政策投資銀行は15日、木造建築のシェルター(山形市)が発行する優先株2000万円を引き受けたと発表した。耐

地方創生や事業の成長などにつながる取り組みを応援する政投銀の「特定投資業務」を活用した。シェルターは、柱と梁

(はり)を金物で接合する工法を開発、木造で構造計算ができるようにしたほか、2時間耐火の木造部材を日本で初めて開発するなど、木造建築で中高層建築を可能にする技術開発や普及を進めている。

2時間耐火部材では建築基準法上、14階建てまで建築が可能。3時間耐火が実現すれば階数制限がなくなる。シェルターでは下層階を鉄筋コンクリートや鉄骨造、上層階を木造にする混構造とするなどして高層木造建築の実現を目指す。

火性能を備えた木造建築の大規模化や中高層建築の普及による「木造都市」づくりを目指すシェルターは、木造では実現できていない「3時間耐火」に挑む。地元産木材を使える地域メリットもある。

シェルターの耐火部材は、木造4階建ての京都木材会館や、世界ギネス記録に認定された「最大の木造コンサートホール」(山形県南陽市)に使われているほか、市庁舎建て替えて採用を検討している自治体もある。